男子日本勢も勝ち越す

第七回日韓社会人交流試合

竹野奉昭団長（現男子ナショナル監督）をはじめとする18名の男子実業団選抜チームは、3月19日韓国に向けて大阪空港を出発10日間の日程で5試合を消化し、3勝1敗分の戦績を土産に全員無事な姿を再び28日大阪空港に見せた。

○…緒戦前半立ち上がり5分間両者共に得点なく、6分過ぎに円光寺大6番季がロングシュートからたて続けに3点を連取、波に乗った円光大は速攻などで一気に日本を引き離し前半で勝負を決めた

○…第2戦　やはり緒戦での大敗から調子の出ない日本は忠南大13番の季得点を許すなどし、本来のペースが作れず、辛うじて引き分けに持ち込んだ。

○…第3戦は両者共に得点を争うゲームとなったが、結果的には互いにディフェンスにミスが目立ち、日本も相手に実に8PT得点を与えてしまった。しかしながらこの試合、ベテラン田上（7得点）の活躍で快勝した。

○…第4戦　日本は立ち上がり下茂・吹上の日新コンビによる得点で先行、最先の良いスタートを切った。その後仁荷工学大もポスト、サイドと多彩な攻撃で応戦観客を沸かせたが、この日好調の大崎・椿原のミドルシュートが決まり出し、前半でほぼ勝敗を手中にした。

○…第5戦　最終戦とあってか勝ち越しを何んとしても決めたい日本も気が入り、ベテラン田上・喜井の本田コンビの大活躍により望み通り勝ち越しを決めた日本側の好展開のゲームであった。

日本・田上、喜井両選手で25点中17点を上げている。

また、成均館大OBの車は一人で11点を上げる活躍を見せ名実共に韓国のハンドボール界に〃車あり〃と依然健在なプレーを見せ、日本選手も圧倒され、観客も大いに沸かす好ファイトであった。

第7回日韓社会人交流男子訪韓選手団

団長		竹野　奉昭	（大崎電気）
監督		細野　秀男	（本田技研）
コーチ		寺本　信一	（大崎電気）
マネージャー		中田　隆一	（本田技研）
選手　GK	1.	原田　昭昌	（大崎電気）
〃	12.	大園　勝行	（大同特殊鋼）
FP	2.	田上　敬三	（本田技研）
〃	3.	喜井　美雄	（　〃　）
〃	4.	下茂　文秋	（日新製鋼）
〃	5.	松本　義樹	（湧永薬品）
〃	6.	吹上　明	（日新製鋼）
〃	7.	椿原　美春	（大崎電気）
〃	8.	浦田　勝之	（大同特殊鋼）
〃	9.	牧　一秋	（トヨタ車体）
〃	10.	南　善文	（新日鉄大分）
〃	11.	千葉　龍明	（東京重機）
〃	13.	梅屋　正直	（三陽商会）
〃	14.	池辺　浩	（日鉄建材）

▼第1戦（3月20日・円光大学校体育館・3時試合開始）

円光大学 33（18-14、15-8）22 日本実業団選抜

得	【日本】		【円光】	得
0	原田	GK	No.1	0
0	大園	GK	〃12	0
9	田上	FP	〃2	9
6	喜井	FP	〃3	8
0	下茂	FP	〃4	0
5	松本	FP	〃5	4
2	吹上	FP	〃6	7
0	椿原	FP	〃7	3
0	浦田	FP	〃8	1
0	牧	FP	〃9	0
0	南	FP	〃10	0
0	池辺	FP	〃11	1
22				33

▼第2戦（3月23日・大田忠武体育館・4時20分試合開始）

日本実業団選抜 16（10-6、6-10）16 忠南大学大田選抜

得	【日本】		【忠南】	得
0	原田	GK	朴斗淳	0
0	大園	GK	申澈仁	0
5	田上	FP	林然得	0
3	喜井	FP	李炳璣	0
4	下茂	FP	金英錫	2
1	松本	FP	李允炳	0
0	吹上	FP	権五俊	1
1	椿原	FP	李徳熙	2
1	浦田	FP	曹泳澤	0
0	牧	FP	安熙喆	3
1	南	FP	申鎬燮	1
0	千葉	FP	李徳忠	7
16				16

▼第3戦（3月24日・釜山大学校体育館・3時試合開始）

日本実業団選抜 29（15-16、14-9）25 釜山大学校

得	【日本】		【釜山】	得
0	原田	GK	金炅垠	0
0	大園	GK	李向傑	0
7	田上	FP	金慶洙	2
6	喜井	FP	趙在道	1
4	下茂	FP	朴賛應	6
5	松本	FP	李珍丸	1
2	吹上	FP	鄭激哲	4
2	椿原	FP	李甲洙	7
0	浦田	FP	呉珍澤	3
0	牧	FP	朴性培	0
1	南	FP	朴性國	0
2	梅屋	FP	鄭海永	1
29				25

▼第4戦（3月26日・仁川体育館・16時試合開始）

日本実業団選抜 23（7-8、16-10）18 仁荷工学大学

得	【日本】		【仁荷】	得
0	原田	GK	金鐘斗	0
0	大園	GK	崔勝玉	0
4	田上	FP	金勝鎬	1
3	喜井	FP	朴斉喆	2
5	下茂	FP	魏栄萬	2
4	松本	FP	李勝在	8
2	吹上	FP	張洙泰	0
5	椿原	FP	高昌徳	0
0	浦田	FP	金鐘寛	0
0	牧	FP	尹到元	0
0	南	FP	金龍泰	0
0	千葉	FP	金正洙	5
23				18

▼第5戦（3月27日・蚕室学生体育館・16時試合開始）

日本実業団選抜 25（11-12、14-11）23 成均館大学OB

得	【日本】		【成均】	得
0	原田	GK	姜正鉉	0
0	大園	GK	金永年	0
9	田上	FP	崔掬鎮	1
8	喜井	FP	孫泰烈	2
3	下茂	FP	車	11
1	松本	FP	金	3
1	吹上	FP	張	0
2	椿原	FP	金	1
1	浦田	FP	白根昱	0
0	牧	FP	安義洙	0
0	南	FP	崔昌南	3
0	池辺	FP	高	2
25				23

全日本学生選抜ニューカレドニア遠征報告

南太平地区の遠征に思う

団長　藤松　博

4月4日から4月20日の間、全日本学連の選抜チームは、南十字星の輝く、ニューカレドニア、ニューヘブリデス、タヒチなどのいわゆる、南太平洋フランス領の諸国に遠征する機会を得た。

試合の結果その他については、別記報告の通りであるが、私はこの遠征の責任者として感じたことをご報告いたしたいと思います。

大変面白い企画であり、従来の外国遠征とは趣を異にしたユニークな遠征であった。

若い学連の選手諸君は、人生またとないいろいろな経験をして帰国して参りました。

ヌーメア市（2試合）ポートビラ市、パペーテ市の3つの市で計4試合を、フランスのナショナルチームと滞同し、胸をかりる試合を行って来ました。自然そのものの地で、約2週間のんびりとした試合日程のもとでの遠征でした。

フランス本国のスポーツ省の企画になる今回の試合は、当地においては、めったにない国家的行事であり、ナショナルチームを見るのもはじめての人ばかりであったその為にその運営は、政財界は勿論のこと、地元の小、中学校も休講にして歓迎し観戦するような熱のいれかただった。

その意味から云えば、日本チームは、真のナショナルチームではなく、大変失礼であった様に思えた。それ程場違いの雰囲気であった。

学連としてもその点はある程度予測出来たので、遠征の性格、または目的について出来るだけ探るべき努力をした。普及か、親善かはたまたフランスチームの強化のお手伝いかなど協会関係者にたづねてみたが、その解答は出発する迄得られなかった、協会の国際部あたりの事前の指導が欲しかった。

「試合場は屋外か屋内か?」「宿舎はどこになるのか?」「遠征の日程はどの程度決っているのか?」「英語は通じるのか?」など不安なまま出発することになった。

最初の試合地ヌーメア市（ニューカレドニア）に着いて驚いた新聞記者、TV撮影、などの報導関係者が山程集まり、日本チームの一挙手一投足までニュースにするありさまだ。日本チームの来訪は1カ月前から新聞やラジオで紹介され、滞在中の日程も詳しく報導されていた。協会のネットワークでこうした情報をキャッチして欲しかった。

試合場も近代的なラバーコートを新設し、入場料も日本円で三〇〇〇円程度で発売されていた。ニューカレドニア、ニューヘブリデスポリネシア（タヒチ）の3国でリーグ戦をすでに盛んに行い、各国とも5～7チーム(男、女とも)をそのリーグ戦に参加させていた前座試合で観戦した限りにおいては、そのレベルも決して低いものではなく、関東学生リーグの2部あたりの技術を持っていた。ニューヘブリデス、タヒチでも同じである。

この行事が国家的行事である為に、日本チームはナショナルゲストとして歓迎された。

領事、高等弁務官、更には地元市長などの紹待レセプションが連日組まれ、地元の協会は総力をあげてウエルカム・パーデーをしてくれた。日本チームの準備不足、認識不足が本当に残念であった。

フランスナショナルが、協会の会長を筆頭にベストスタッフでのぞみ、ルーマニアのIHFレフェリーをも滞同して来る程の熱のいれように対し、日本のそれは、淋しい限りであった。

ニッケル移民の日本人の二世、三世は、祖国日本のチームが来るとゆうので、頭の下るような歓迎と声援であった。その意味からもフランスナショナルに勝ちたかった。

地元原住民の親日感情は、日本では想像もできない程であった。若い選手諸君は、勝敗はともかく親善にはすばらしくこうけんしたと信じています。

今回の遠征で学生諸君の得た経験は終生忘れ得ない程多く、またすばらしかったと思う。

兄貴分のフランスナショナルと前の試合の反省をしながら、次の試合のぞめたこと。

地元のハンドボールメイトを得たこと、更に人生のうち、何回経験出来るかわからない。ナショナルゲストとしてレセプションに参加できたこと、そして、日本人が忘れかけている本当の自然の中での生活など数えあげればきりがない。

柔軟性に富んだ軀格と、驚く程の敏捷性をもった地元のハンドボールは、ヨーロッパにもアジアにもないハンドボール技術を開発していた。近い将来、オーストラリアゾーンに属すのか、アジアゾーンに属すかは別として、日本にとっては油断できない素質をもったハンドボール愛好者の多かったことを報告いたします。

■第1戦

4月7日　ニューカレドニア　ヌメア市　オムニスポール体育館

観客二〇〇〇

フランス 23（12－4、11－8）12 日本

前半10分を過ぎるまで、日本は再三得点チャンスを得たが、フランスの長身キーパー・バリノの好守に阻まれ、得点できなかった。

一方、日本と平均身長で10㎝・体重で10kg優るフランスは、ジェオフロイの強引なフェイントから日本ディフェンスをゆさぶり、カットインプレーから着実に得点した。

日本は、始め一―五ディフェンスシステムを敷いたが、前半10分以後一線防御に切り変え、防御の立ち直りを計った。しかし、国際試合経験の少ない日本選手は、フランスのパワフルな攻撃に押されフリーな状態からミドルシュートを許してしまった。

日本チームは、その後もコンビプレーの歯車がかみ合わず、単調なシュートを繰り返すだけだった

後半、日本チームも、フランス長身選手のプレーに慣れ、防御では激しいピストンを繰り返し、フランスの攻撃に対応できるようになった。

しかし、攻撃のスピードは、逆に鈍くなっていた。

第一戦は、国際試合初の日本選手にとって、貴重な経験となったことと思う。その中で、GK加藤の好守と、本のペナルティスローを確実に決めた西山及び山口の活躍が目立った。

■第二戦

4月9日　ヌメア市　オムニスポール体育館　観客一、六〇〇

フランス 19（10―10 / 9―5）15 日本

第二戦は、第一戦の経験を充分に生かし、日本としては最高の試合展開を繰り広げた。

第一戦でフランスのパワフルな攻撃に押された日本は、フランスのカットイン攻撃に対し、フリースローラインの外側まで押し返した。

先取点は、フランスのメイヤーに決められたものの、日本が優位に前半を進めた。

前半2分に西山が中央からシュートを決めれば、3分には山口が速攻から得点し、その後植木・村崎などの活躍で、着実に加点していった。この間、サイドの坂本が速攻ですばらしい出足を見せたが坂本までボールが回わらず、数回得点チャンスをのがしたのが惜しかった。

フランスは、前半日本の一線防御からの激しいピストンに悩まされ、ペナルディによる得点で、辛うじて前半を同点とした。

後半も日本は、優位に試合を進めていたが、8分に13―13とされた。日本は、同点にされた頃から攻守に疲れが目立ち、その後の15分間に2点しか加点できなかった。

あと一歩の体力があればと惜しまれる試合だったが、若手日本選手にとって、百パーセントの力を出し切った試合だった。

■第三戦

4月11日　ニューヘブリデス諸島ポートビラ　観客八〇〇

フランス 26（13―10 / 13―3）13 日本

ここポートビラに広い体育館はなく、高校の体育館（37m×17m）が会場となった。幅17mのコートでは、サイド攻撃は無理で、中央からの攻撃を余儀なくされた。

試合開始直後日本は、フランスに連続4点を献上したが、覚間の速攻で得点した7分からの反撃を開始した。植木・山口らがカットインからフランスのディフェンスをゆさぶり、その小さな隙間をぬって西山・村崎がクィックシュートを決めていった。

前半一線防御を行ったフランスは一―五ディフェンスに切り変え壁を一層厚くしてきた。前半成功した山口・植木のフェイントも後半はトップに阻まれ、ボールがうまく展開しなくなった。結局無理な体勢からロングシュートを余儀なくされ、相手の速攻に屈してしまった。

ニューカレドニアでの歓迎攻めに加え、飛行機による移動で疲労の極に達した両チームの選手。しかもコート幅が17mしかなく、中央からの攻撃しかできなかった今試合の得点差は、平均身長差10cmの差と言えよう。

■第4戦

4月14日　タヒチ諸島　パペーデ　観客一、二〇〇

立ち上り、フランスは、ジョフロイ・ニケースの一八〇cmコンビの活躍で、6―2としたが、日本も長野・山口の鋭い動きからのシュートで得点を重ね、前半は互格の試合を行った。

後半フランスは、メイヤー・アンドリルナス・ジローなどの長身選手がロングシュートを着々と決め、キャプデン・ニケースやジョフロイなどが速攻でポイントしていった。

一方日本は村崎・西山のロングシュートに加え、長野・山口・坂本の活躍で応戦したが、得点差は徐々に広がっていった。

最終戦を前に、一矢を報いるべく、気合いの入った日本チームではあったが、結果は大差となってしまった。

この試合、防御で30失点をしたが、フランスから大量21点を得たことの意味は大きい。

新発売「ハンドボールスペシャル」

世界を制したスペシャル・ラバーシェルソールとは!?

●adidasは世界のスポーツシューズ総合メーカーです。●adidasの3本線はオリジナルです。

Napoli

3155 ナポリ
(赤×白) ￥7,500
●モデル「アテネ」の色違い

Athen

3150 アテネ
(青×白) ￥7,500
●ベロアレザー甲皮
●シェルソール

Hand ball Special

(青×白) ￥19,000

■ベロアレザー甲皮。つま先、かかと強化。
■スペシャル・ラバーシェルソールは、3つの吸盤とストップ、回転グリップ、各機能をもつ3ゾーンにわかれ、床を正確に、そして安定感ゆたかにとらえ、その結果、あなたは、スピードとパワーに乗った大胆なプレーを、狙い通りに決められます。また、このソール構造は、関節への衝撃からくる傷害を防ぎます。
■つま先部には、9個の通気孔があり、靴内の熱気からくる疲れを抑えました。靴舌にも通気孔を採用。
■足首、かかと、靴舌に、はきごこちを高めるパッドを採用。

adidas®

●お求めは adidas 特約店で。
総代理店 兼松江商株式会社　発売元 兼松スポーツ用品株式会社
〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431
〒101 東京都千代田区内神田 ☎03-295-5611

第20回 全日本実業団選手権大会（女子の部）

日本ビクター三年連続三度目の栄冠！

○……去る5月25日～27日・三日間山梨県体育館にて11チームの参加により行なわれた第20回全日本女子実業団選手権大会は、日本ビクターの三年連続優勝という結果に終わった。また今大会東京重機が北国銀行を破って4位に入賞する大健闘が目立った。

▽一回戦

東北ムネカタ 19（11―5／8―10）15 大和銀行

前半、ロングシュート、速攻、PTなどと多彩な攻撃で得点を重ねたムネカタは、15分過ぎには8―4とし、前半に入り大和はムネカタの2番、5番をマーク、これが好結果となり、ムネカタの攻撃の乱れから得点を重ね反撃したが、前半の差が物を言い逃げ切られた。

	【大和】	得	【東北】	得
GK	丸山	0	清水	0
GK	茂利	0	川音	0
FP	宮本	3	広田	3
FP	若杉	0	岡部	4
FP	冨家	0	鈴木	0
FP	増永	2	清水	3
FP	東木	2	石田	3
FP	米山	1	大河原	2
FP	西田	3	米野	1
FP	門	1	落合	0
FP	千原	0	水野	0
FP	鈴木	3	物井	3

（審・槇田 三枝）

19（6）PT（2）15

ブラザー工業 14（6―6／8―7）13 大崎電気

前半、速攻のブラザー、遅攻の大崎と一進一退の好ゲームを展開6―6の同点で後半に折り返えす後半に入り両者共に得点を重ね5分過ぎには再び8―8となったがブラザー9番山村が立て続けに速攻で3点を連取し11―8と逆点、その後大崎も2番西、5番石井と点を返すが同点にすることができずブラザーが辛くも1点差で逃げ切った。

	【ブ工】	得	【大崎】	得
GK	山本	0	中島	0
GK	屋比久	0	藤村	0
FP	杏原	0	西	4
FP	竹内	1	陽田	3
FP	則武	2	佐々木	0
FP	増永	0	石井	2
FP	宮平	2	大場	3
FP	植田	2	徳渕	1
FP	山村	6	江島	0
FP	中川	1	渡辺	0
FP	宮本	0	根間	0
FP	尾崎	0	宮嶋	0

（審・斉藤 藤田）

13（1）PT（2）14

東京重機 28（20―1／8―3）4 和歌山県商工信組

前半立ち上がりから重機は県商工のパスの乱れをうまく突いてカットに入り得意の速攻で着実に点を重ね前半で大差をつけた。県商工には攻撃のパターンをもう一工夫変えればもう少し試合も盛り上がったであろう。

	【和歌】	得	【重機】	得
GK	坂田	0	佐久間	0
GK		0	橋本	0
FP	清水	1	寺西	3
FP	塩崎	0	古谷	1
FP	奈手	0	川本	5
FP	遠藤	2	池田	6
FP	山本	1	沖山	4
FP	蒲田	0	鈴木	7
FP			森田	0
FP			大前	1
FP			宮田	0
FP			宮下	1

（審・後藤 後藤）

28（2）PT（0）4

▽二回戦

日本ビクター 29（16―2／13―2）4 東北ムネカタ

日本ビクターの厚いディフェンスの前には一回戦健闘のムネカタの攻撃も半ば空回りの展開となり前半わずかに清水のPTによる得点で2点をあげるにとどまった。

一方のビクターは新人選手を多く投入し元気の良い足運びによる速攻も見事であり、またディフェンスからのカットプレーなどと終始ムネカタを圧倒、大差で3回戦へ駒を進めた。

	【ビク】	得	【東北】	得
GK	鈴木	0	清水	0
GK	塙	0	川音	0
FP	加藤	4	広田	0
FP	穂積	5	岡部	1
FP	小島	10	鈴木	0
FP	斉藤	0	清水	3
FP	伊藤	5	石田	0
FP	岩城	1	大河原	0
FP	寺村	0	米野	0
FP	池田	0	落合	0
FP	村上	0	水野	0
FP	志村	4	物井	0

（審・小松 清水）

4（2）PT（6）29

ジャスコ 22（14―7／8―4）11 立石電機

両チーム共にスピードに乗った走りでゲームを展開、しかし立石はパスワークにやや難があり良いシュート態勢になりきれずジャスコGK矢部の巧守に再三の得点チャンスを逃す。一方のジャスコはパスワークの正確さと確実なシュートチャンスによる得点で立石を大きく引き離した。

	【ジャ】	得	【立石】	得
GK	山本	0	丸山	0
GK	矢部	0	井村	0
FP	平田	0	姫野	2
FP	松下	7	桑原	4
FP	林	0	亀園	1
FP	金田	4	紀野	1
FP	横山	1	是枝	0
FP	河田	6	羽立	0
FP	笠	0	橋ノ口	1
FP	若田	2	福永	1
FP	山本	2	薮田	1
FP	辻本	0	喜久山	0

（審・槇田 三枝）

11（6）PT（2）22

ブラザー工業 13（5―8／8―4）12 日立栃木

立ち上がりから両チーム共に速攻の応酬の展開となり、前は共に譲らず8―8の同点で後半へ折り返えす。後半に入ってからも両チーム共によく走り、ブラザーは確実に得点を重ねて行くが、日立はこの間にPTを3本ミスしてしまい、この結果が大きくひびいて終了間際日立・山戸が一点を返すがブラザーに一点差で逃げ切られてしまった。

	【ブ工】	得	【日立】	得
GK	山本	0	寺沢	0
GK	屋比久	0	斉藤	0
FP	杏原	0	吉田	1
FP	竹内	1	島田	3
FP	則武	2	山戸	1
FP	増永	0	大輪	3
FP	宮平	2	箕輪	1
FP	植田	0	小根沢	0
FP	山村	6	水上	2
FP	中川	2	大高	0
FP	宮本	0	上田	0
FP	尾崎	0	沖山	1

（審・斉藤 藤田）

12（2）PT（2）13

東京重機 15（9―6／6―5）11 北国銀行

前半立ち上がりから緊迫したゲーム展開となり、両チーム共に持味を生かした中でセット力で北国スピードで重機となかなかの好ゲームとなった。後半に入って縦の攻撃を生かした北国にノーマーク2本をはずすというミスがあり、この間に重機は着実に点を加え13分には11―9と2点リードからそのままのペースで終了、重機は久々に持前のゲーム展開を見せてくれた。

	【重機】	得	【北国】	得
GK	佐久間	0	酒谷	1
GK	橋本	0	竹本	0
FP	寺西	3	床田	2
FP	古谷	1	中山	1
FP	川本	5	本田	1
FP	池田	3	木戸	2
FP	沖山	3	千歩	0
FP	鈴木	0	木内	0
FP	森田	0	八木	3
FP	大前	0	西山	0
FP	宮田	0	坂	0
FP	宮下	0	宮西	1

（審・後藤 後藤）

11（2）PT（1）15

▽準決勝

日本ビクター 12（5—6／7—4）10 ジャスコ

両チーム立ち上がりから緊張が見られパスワークの乱れがあったが、ビクターは3番穂積を中心に得点をあげた。一方のジャスコは早い動きとカットインズ得点。前半ジャスコ点のリードで後半に折り返えす。

後半に入っても一進一退の攻防が続いたがビクターはパスワークフェインなどによる多彩な攻撃でジャスコディフェンスの乱れを突いてPTを得、それを小島らが着実に決めてこの試合に勝利をもたらした。

得	【ビク】		【ジャ】	得
0	鈴木	GK	山本	0
			矢部	0
1	加藤	FP	平田	0
3	穂積	（審・槇田・三枝）	松下	5
5	小島		林	0
0	斉藤		金田	2
1	伊東		横山	0
0	岩城		河田	1
0	寺村		笠	0
2	池田		若田	0
0	高橋		山本	1
0	志村		辻本	1
12	（5）	PT	（2）	10

ブラザー工業 22（13—2／9—8）10 東京重機

立ち上がり固くなった重機はいつもの動きがなくシュートも散発的で、かえってこれがブラザーの速攻を招くことになり前半で大差をつけられてしまった。後半元気を取り戻した重機は足運びも良くなり互角に闘ったが、やはり前半の大差が物を高いブラザーの貫禄勝ちとなった。

得	【重機】		【ブ工】	得
0	佐久間	GK	山本	0
0	橋本		屋比久	0
0	寺西	FP	杏原	2
0	古谷	（審・小松・清水）	竹内	3
1	川本		則武	1
4	池田		増永	0
0	沖山		宮平	4
5	鈴木		植田	5
0	森田		山村	2
0	大前		中川	5
0	宮田		宮本	0
0	宮下		尾崎	0
10	（3）	PT	（0）	22

▽決勝

日本ビクター 13（8—6／5—5）11 ブラザー工業

立ち上がりブラザーは速攻・ミドルシュートと型どうりの展開で得点をあげて行ったが、これに対しビクター少しもあわてずチャンスを待ち、相手の緊張のあい間を見てそのスキに着実に得点。

後半に入ってからも、双方決勝にふさわしい白熱したゲーム展開となり、この日の満員の観衆を沸かす。何んとか同点に持ち込みたいブラザーはPTを2本はずしてしまいチャンスを逸した。一方1点リードで終盤を迎えたビクターは2番加藤の闘志に満ちたシュートで終了間際ダメ押しの得点で逃げ切った。

得	【ビク】		【ブ工】	得
0	鈴木	GK	山本	0
0	塙		屋辻	0
3	加藤	FP	杏原	0
3	穂積	（審・斉藤・千野）	竹内	0
4	小島		則武	2
1	斉藤		増永	0
1	伊藤		宮平	3
0	岩城		植田	0
0	寺村		山村	4
0	池田		中川	2
0	高橋		宮本	0
0	志村		尾崎	0
13	（3）	PT	（1）	11

▽三位決定戦

ジャスコ 41（23—2／18—3）5 東京重機

ジャスコの圧倒的な勝利に終わった。重機は準決勝でのブラザー戦との疲れがとれなかったのか、全く勝気が無く終始ジャスコの猛攻を受け、自らのペースを取り戻す余裕さえなかった。

◎敗者復活一回戦

日立栃木 13（6—3／7—5）8 北国銀行

前半両チーム共にシュートを数多く打つがシュートコースが甘くまた両ゴールキーパーの好守にもよりなかなか得点に結びつけることができない。5分過ぎより北国のディフェンスの乱れから日立はPTをたて続けに2本取り、これをエース島田が決めて2—0と日立がリード。その後北国も挽回をはかり中山が2ゴールを決めるが力強いシュートを決める日立のリードで前半を終了。後半に入ってからは、両チーム共にディフェンスに荒らが目立ち、警告者が続出後半は逆に日立が北国にPT4得点を与えるなど、ラフファイトが目立った。

しかしながら、見ごたえのある好試合であったと言えるだろう。

得	【北国】		【日立】	得
0	酒谷	GK	寺沢	0
0	竹本		斉藤	0
1	床田	FP	吉田	3
2	中山	（審・千野・後藤）	島田	6
0	本田		山戸	0
0	木戸		大輪	1
1	千歩		箕輪	1
0	木内		小根沢	0
4	八木		水上	2
0	西出		大高	0
0	坂		上田	0
0	宮西		沖山	0
8	（4）	PT	（4）	13

立石電機 17（9—4／8—6）10 大和銀行

前半立ち上がり、立石は姫野、亀園らのステップシュートにより先攻し、走ってカットインから大和ディフェンスの乱れを突き、PTにより得点するなど試合を優位に進めた。一方の大和は宮本のロングシュートなどで応戦した。しかしコンビプレーにもう一つ足が合わず得点に結び付けることができずに9—4と立石リードのまま前半を終了。後半に入っても立石はよく走りカットインを主体にポス

得	【大和】		【立石】	得
0	丸山	GK	丸山	0
0	茂利		井村	0
5	宮本	FP	姫野	3
1	若杉	（審・　）	桑原	1
2	富家		亀園	2
1	増永		紀野	1
0	東木		是枝	0
1	西田		羽立	3
0	門		橋ノ口	1
0	千原		福永	2
0	鈴木		薮田	4
0	山下		喜久山	0
10	（2）	PT	（6）	17

トをうまく利用し、多彩な攻撃で大和の追撃を振り切った。

大崎電気 25（14—4 11—4）8 和歌山県商工信組

立ち上がり大崎は右サイドより4番佐々木が得点、一方の県商工も4番塩崎がロングシュートを決め1—1としたが、実力に優る大崎が相手ミスからの速攻など得点点差を大きく拡げた。後半に入って大崎は新メンバーで対戦したが前半のペースをそのまま崩さず着実に得点を上げ快勝した。

	【和歌】	得	【大崎】	得
GK	坂田	0	藤村	0
GK			梅野	0
FP	清水	4	西	2
FP	塩崎	1	陽田	2
FP	奈手	1	佐々木	2
FP	遠藤	1	石井	6
FP	山本	0	大場	3
FP	蒲田	1	徳渕	2
FP			江島	3
FP			渡辺	3
FP			根間	2
FP			宮嶋	0

（審・後藤 千野）

25（2）PT（3）8

▽同二回戦

日立栃木 19（9—3 10—7）10 東北ムネカタ

日立は立ち上がりムネカタのディフェンスの乱れを突いて得点を重ねた。一方のムネカタは速攻で点を返すが、セット攻撃では日立の厚い壁にはばまれ追加点を取ることができず前半を終了。

後半に入って日立はパス運びのうまさから速攻を生かして得点を重ね点差を広げていった。ムネカタはどうしても日立の厚いディフェンスを破ることができなかった

	【東北】	得	【日立】	得
GK	清水	0	寺沢	0
GK	川音	0	斉藤	0
FP	広田	2	吉田	2
FP	岡部	1	島田	3
FP	鈴木	0	山戸	3
FP	清水	3	大輪	3
FP	石田	2	箕輪	1
FP	大河原	0	小根沢	2
FP	米野	0	水上	2
FP	落合	0	大高	0
FP	水野	0	上田	0
FP	物井	2	沖山	3

（審・斉藤 藤田）

19（4）PT（3）10

立石電機 15（7—6 8—5）11 大崎電気

前半立石のスローオフで始まり開始後30秒立石・薮田のポストシュートにより先行。大崎も速攻で佐々木がサイドシュートを決めその互いに激しい攻防となり立石がわずかにリードして後半に折り返す。後半開始直後大崎、西、石井とロングが決まり8—7と逆点したが、その後PTなどの得点ミスでペースを狂わせてしまった。一方の立石はベテラン紀野が攻守に秀れたまとめ役を見せ、大崎の追撃を振り切った。

	【立石】	得	【大崎】	得
GK	丸山	0	中島	0
GK	井村	0	藤村	0
FP	姫野	2	西	3
FP	桑原	1	陽田	2
FP	亀園	0	佐々木	1
FP	紀野	4	石井	2
FP	是枝	0	大場	3
FP	羽立	1	徳渕	0
FP	橋ノ口	0	江島	0
FP	福永	0	渡部	0
FP	薮田	7	根間	0
FP	喜久山	0	宮嶋	0

（審・槇田 三枝）

11（1）PT（4）15

▽同三回戦（5位決定戦）

日立栃木 21（10—6 11—9）15 立石電機

この試合、立石は2番姫野を中心とするポストプレーにややこだわり過ぎて攻撃の展開も狭くなってしまった。一方の日立は島田を中心にコートバランスを考えたうまい攻撃が功を奏し、続く水上らの活躍で追い上げる立石を見事に振り切った。また、日立島田はこの試合で実に得11点をたたき出しエースの貫禄を見せた。

	【立石】	得	【日立】	得
GK	丸山	0	寺沢	0
GK	井村	0	斉藤	0
FP	姫野	2	吉田	2
FP	桑原	2	島田	11
FP	亀園	1	山戸	0
FP	紀野	3	大輪	2
FP	是枝	0	箕輪	1
FP	羽立	2	小根沢	0
FP	橋口	0	水上	5
FP	福永	1	大高	0
FP	薮田	4	上田	0
FP	喜久山	0	沖山	0

（審・小松 清水）

21（6）PT（5）15

◎七—八位決定戦

大崎電機 18（10—5 8—1）6 東北ムネカタ

	【東北】	得	【大崎】	得
GK	清水	0	中島	0
GK	川音	0	藤村	0
FP	広田	0	西	2
FP	岡部	3	陽田	4
FP	鈴木	0	佐々木	2
FP	清水	0	石井	3
FP	石田	2	大場	5
FP	大河原	1	徳渕	1
FP	米野	0	江島	0
FP	落会	0	渡部	1
FP	水野	0	根間	0
FP	物井	0	宮嶋	0

（審・後藤 藤田）

18（1）PT（0）6

各賞受賞者

◎ベストセブン

（○内は受賞回数を示す）

GK
山本　福代（ブラザー）初

FP
加藤　美起（ビクター）④
穂積美保子（ビクター）③
中川しげみ（ブラザー）②
宮平　恵子（ブラザー）初
松下　仁美（ジャスコ）⑤
島田さゆり（日立栃木）③

◎敢闘選手賞

GK
矢部登茂子（ジャスコ）

FP
河田　栄子（ジャスコ）
古谷　裕子（東京重機）
池田万里子（東京重機）

◎得点王
島田さゆり（日立栃木 23点）

◎最優秀新人賞
竹内　保子（ブラザー）

『ハンドボール』

54年5月号（第174号）目次

【表紙写真】全日本男子欧州遠征第一戦・全日本—西ドイツ。シュートする西ドイツのシュルツ、後方はバルッケ。GK福井（3月30日・ブッパータル）本田洋氏提供

第20回全日本実業団ハンドボール選手権大会

成　績　結　果

1回戦		2回戦		準決勝		決勝	
東北ムネカタ 19	大和銀行 15	日本ビクター 29	東北ムネカタ 4	日本ビクター 12	ジャスコ 10	日本ビクター 13	ブラザー工業 11
大崎電気 13	ブラザー工業 14	立石電機 11	ジャスコ 22	ブラザー工業 22	東京重機 10		
和歌山商工信組 4	東京重機 28	日立栃木 12	ブラザー工業 13				
		東京重機 15	北国銀行 11				

優勝
日本ビクター

準優勝
ブラザー工業

3位決定戦：東京重機 5 ― ジャスコ 41

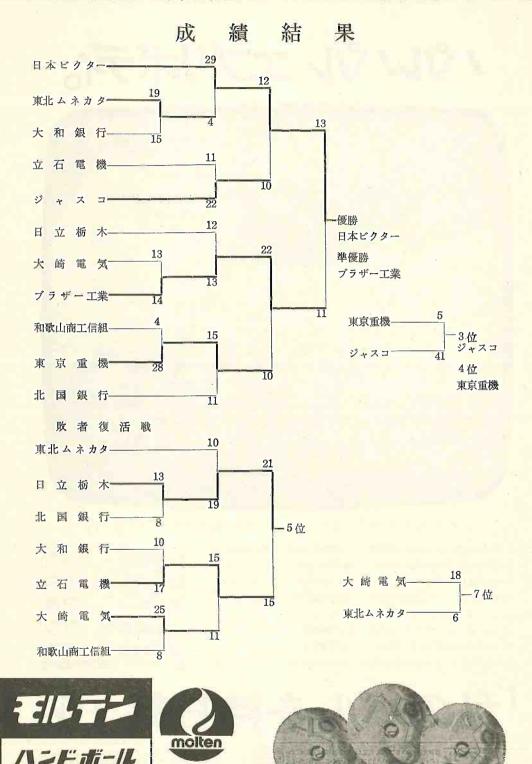
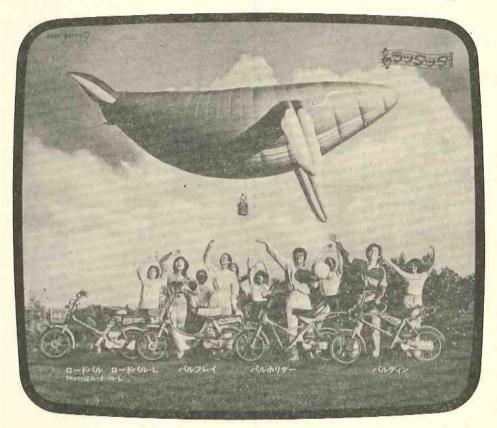
3位　ジャスコ
4位　東京重機

敗　者　復　活　戦

1回戦		2回戦		5位決定	
日立栃木 13	北国銀行 8	東北ムネカタ 10	日立栃木 19	日立栃木 21	立石電機 15
大和銀行 10	立石電機 17	立石電機 15	大崎電気 11		
大崎電気 25	和歌山商工信組 8				

5位

7位決定戦：大崎電気 18 ― 東北ムネカタ 6

7位

パルパル エブリボディ。

5タイプそろったホンダのパルシリーズ。乗りやすさは共通。お好きなタイプが選べます。

ロードパルの仲間たちが、たくさん走りはじめています。あの道、この道が、急にバラエティ豊かになりました。スタイルいろいろ。色とりどり。乗る人の個性と、パルの個性が…なぜかぴったり合うのです。5タイプそろったパルのうち、あなたのお気に入りはどれですか。もちろん、やさしさ・乗りやすさは、みんなおなじ。気軽にどこかへ散歩、としゃれてみたくなります。

パルはユニーク。新しい仲間も、個性たっぷり。●パルフレイ：エレガントなデザイン。乗り降りのラクなU字フレーム(車体中央)。泥ハネから足もとを守るレッグシールドなど親切設計が特長。●パルホリデー：ユニークなヒップアップ・シート。しゃれた感覚のバーハンドル。タウンで似合うバイクです。●パルディン：スリムなパイプフレーム、イキなクロームメッキ・フェンダーがナウな感じ。

こぞんじですね、ラッタッタ。
ロードパル――標準現金価格 ¥59,800

クイックスタート、とってもべんり。
ロードパル・L――標準現金価格 ¥64,800

乗るかたへの心くばりがいっぱい。
パルフレイ――標準現金価格 ¥75,000

しゃれたスタイル、タウンで似合う。
パルホリデー――標準現金価格 ¥79,000

ヤングの感覚、ナウなフィーリング。
パルディン――標準現金価格 ¥79,000

ヘルメットをかぶろう　HONDA

「私のパル」を持ちましょう。

パルスクール　原付免許の取り方だけでなく、正しい乗り方指導までも実施しているのが「パルスクール」の大きな特長。ていねいにご指導しています。

わずかな頭金とかんたんな手続きでお求めいただけます。お支払い方法は、ご予算にあわせていろいろ。クレジットカードはいりません。　★パルスクールとクレジットの詳細は、ホンダ販売店でどうぞ。

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593：78－1212〈代表〉

オリンピック控え確かな手応え

全日本、西ドイツ、オーストリア転戦

モスクワ・オリンピックでの上位入賞と、今秋に控える同アジア予選突破のための全日本男子ヨーロッパ強化遠征（荒川清美団長ら役員5、選手15）は、3月30日から4月18日まで、西ドイツ、オーストリア両国で12戦を行なうというハードスケジュールのもとに実施された。

全日本男子が、世界選手権やオリンピックなど、いわゆるタイトルマッチ以外の目的で、本場・ヨーロッパを転戦するのは、10年前の東欧遠征以来のこと。

西ドイツでは、世界チャンピオンのナショナルチームと遠征第1戦を行なったあと、同国有力チームと8試合、3勝5敗の成績をおさめたが、各試合とも＜強化＞の目的らしく、多くの〝テスト〟が試みられ、課題を残したものの、コーチングスタッフは、大きな手応えを感じとった。

オーストリアを訪れるのは初めてだったが、世界の上位復帰を目指して新スタートを切ったばかりの同国は、かっこうの相手とみてナショナル連戦を組んで、待ち構えていた。

全日本は、ウィーンでの第2戦を勝ちとったものの、あとの2戦は惜敗、結局、今遠征の通算成績は12戦5勝7敗となった。

一行は4月20日帰国したが、別掲のとおり、7月西ドイツ、9月オーストリアの来日が明きらかとされた。

後半、不甲斐ない崩れ

第1戦・西ドイツナショナルとの試合は、3月30日ブッパーターールで行われた。審判＝ヌーゼル、ハウトブラーケン（ともにオランダ）観衆＝千六百。

西ドイツ 27（11—10、16—7）17 全日本

＜日本の得点＞蒲生6、津川4、斉藤幸、穂積各2、柳川、山本、斉藤将各1

（注）第1戦のテーブルスコアは本誌前号1頁に速報。

○…日本は旅疲れをとる間もなく第1戦、しかも、今シリーズ最強の相手だ。

西ドイツは、ヨーロッパカップなどと日程が重なったため、世界選手権優勝メンバーは、バルッケ（187㎝）、メフレ（184㎝）の二人だけだったが、新進アタッカー・オーリー（191㎝）、ストール（188㎝）などを加え、若さにあふれていた。

日本は、先取点こそ奪われたがすぐに態勢を立てなおし、13分6—3と逆にリードした。

しかし、前半終了間ぎれ、追加点がとれず、21分9—7と先行しながら、相手の強引な攻めにあい24分9—9と追いつかれた。

日本はようやく25分、蒲生と穂積で仕掛けたスカイプレーが鮮やかに成功、10—9、調子を取り戻すかと思えたが、西ドイツは、残り3分から反撃、10—10のあとハーフタイム寸前、シュルツの速攻が決まって11—10と逆転した。

後半、日本は10—13から12—13まで詰めたが、ここで息切れ、15分15—19と再び差を拡げられてしまった。

こうなると、西ドイツは勢いづく。バルッケ、ケラーらが次々と日本ゴールを襲い、25分22—16、大勢が決まった。

日本は、攻撃で互角にわたりあっても、守りで相手のパワーに押しこまれる弱味が解決されていず点差を開かれはじめた時凡失で得点機を逸することも多い。

その点、西ドイツは、若手といっても、決めるべきところは、確実に、モノにしており、この差がスコアとなって現れた。

西ドイツの顔ぶれからすれば、5点差以内に食い止めてもよく、遠征疲れのハンデを差し引いても反省点の多い第一戦ということができた。

（木野コーチ）

絶好機のシュート落とす

第2戦・西ドイツジュニアナショナルとの試合は、4月1日ビーレフェルトで行われた。審判＝ファルケンスタイン、ジェス（ともに西ドイツ）、観衆＝千三百。

西ドイツジュニアナショナル 17（9—10、8—5）15 全日本

	【日本】	得
GK	福井	0
GK	岡部	0
FP	津川	0
FP	関	0
FP	斉藤幸	1
FP	蒲生	11
FP	山本	2
FP	生駒	1
FP	斉藤将	0
FP	中本	0
FP	穂積	0
FP	池ノ上	0
PT	(6)	15

	【西ドイツ・J】	得
GK	シーグラライ	0
GK	アンドレアス	0
FP	ラルフ	7
FP	マシアス	0
FP	クラウス	1
FP	バルデミル	0
FP	フランク	3
FP	H・ヨセフ	1
FP	ウーベ	1
FP	コンラド	1
FP	ヨルン	3
FP	ローラント	0
PT	(1)	17

○…西ドイツジュニアは、コーチングスタッフから、徹底的に〝速さ〟を指令されているのか、速攻を武器にして、日本へ立ち向かってきた。

日本は、走り合いとなれば一日の長があるハズだが、相手の帰陣の早さもあって、得点はもっぱらセットから蒲生が叩きこんだ。

いちぢは3点の先行を許したがどうにか挽回、ハーフタイム直前に逆転した。

ところが、後半はじめ、再び西ドイツの速い攻撃にゴールを割られてリードを許し、追いあげたものの、抜き返すことはできなかった。

再三の絶好機で、シュートをバーに当てるなど、自滅ともいえる試合ぶりだった。

再三のリードも実らず

第3戦・西ドイツジュニアナショナルとの2回戦は、3日ノインキルヘンで行われた。審判＝ジェス、ファルケンスタイン、観衆＝千二百

西ドイツジュニアナショナル 14（5－7／9－6）13 全日本

【日本】		得
GK	福井	0
GK	岡部	0
FP	津川	2
FP	穂積	0
FP	蒲生	6
FP	関	5
FP	斉藤幸	0
FP	山本	0
FP	柳川	0
FP	斉藤将	0
FP	池ノ上	0
FP	生駒	0
	PT（2）	13

【西ドイツ・J】		得
GK	ロッシュ	0
GK	ボベル	0
FP	ニーメイヤー	4
FP	バーンブレイル	2
FP	ラルフ	1
FP	アンソベル	2
FP	フリッケ	0
FP	メイヤー	0
FP	シュペンカー	0
FP	コワルスキー	1
FP	ステルゼンバッハ	0
FP	サレウスキー	4
	PT（5）	14

○…日本はまたしても、集中力を僅かに欠いたため、惜しい試合を落としてしまった。

前半の2点差をキープして、後半10分9－7とリードをとっていたのだが、一気に勝負を決めるべきこのあとのチャンスを、連続して失敗した。

いずれも、日本の主武器速攻をミスしたもので、しかも、この隙に、4点を奪われ、西ドイツに主導権を与えてしまったのは、拙すぎる。

日本は、3連敗をなんとか免れたいと気をとりなおし、24分山本の巧技で12－11としたが、後続がないばかりか、再び凡失で相手にみすみす好機を与え、28分12－14タイムアップ寸前、蒲生のゴールで1点差としたが及ばなかった。

王者、西ドイツ、日本で3戦（7月）
9月にはオーストリア来日

全日本男子のヨーロッパ遠征に団長として参加した日本協会・荒川理事長は、4月21日の常務理事会（東京）で、今夏7月、世界チャンピオン・西ドイツ男子ナショナルチームの来日が決定した、と報告した。

西ドイツは、政府筋の後援で6月下旬、中国へ初遠征（5試合の予定）、そのあと、日本へ立ち寄るというもので、国内での日程は、このあと細かく詰められるが西ドイツ側には「全日本と3試合」の了解をとっているという。

現在の予定では、7月7日関西地区、6日名古屋、8日東京とされ、5月なかばまでに各地協会と折しょうする。

西ドイツは、昨春、40年ぶりに世界選手権で優勝、名将ステンツェル監督のもと、モスクワ・オリンピックの最有力金メダル候補。

荒川理事長の話では、クルースピース、スペングラー、ブラントエーレットホフマン（GK）ら、世界ナンバーワンのベストメンバー来日は確定的で、2月の女子世界一、東ドイツ来日につづく、興奮のビッグシリーズとなろう。

また、荒川理事長は、本誌既報のオーストリア男子ナショナルチームの来日についても、相手側との交渉経過を報告した。

それによると、同チームは、女子の同国チャンピオン「ヒポ銀行セントポールテンHC」を滞同して、8月31日来日、9月8日までに男子は5～6試合、女子は5試合を行なうとしている。

日本協会では、男女ともナショナルと1～2試合のほか、ジュニアナショナルとの対戦を検討することになった。

オーストリアは、さきの世界選手権Bグループでは9位、オリンピック強化の総仕上げとしては、絶好の相手といえる。

ようやくリズム取り戻す

第4戦、ヤン・ゲンズンゲン（全国リーグ13位）との試合は、4日ゲンズンゲンで行われた。

全日本 24（15－11／9－7）18 ヤン・ゲンズンゲン

○…相手は、昨年訪独した関東学生を26－16で破っているチームそれだけのことで、日本に〝余裕〟が生じた。

国際試合では、いかに情報が大切か判ろうというもの。蒲生のほか、山本、関のスピード攻撃も○えて押しまくった。このリズムが緒戦に欲しかった。

【日本】		得
GK	井藤	0
GK	岡部	0
FP	津川	3
FP	穂積	3
FP	関	3
FP	蒲生	6
FP	斉藤幸	0
FP	山本	3
FP	柳川	1
FP	生駒	1
FP	池ノ上	3
FP	斉藤将	1
	PT（2）	24

【ゲンズンゲン】		得
GK	ウムバッハ	0
GK	トーマス	0
FP	アナッケル	2
FP	バルドシュミット	2
FP	ドーリング	3
FP	ボーラント	2
FP	ラインハルツ	1
FP	スタインバッハ	5
FP	ファーベル	2
FP	モンベルグ	1
		18

▽日本交替選手・FP中本（得0）

前半のリード守り切る

第5戦、TV・フッテンベルグ（全国リーグ8位）との試合は、5フッテンベルグで行われた。観衆＝四百。

全日本 25（11－12／14－11）23 TV・フッテンベルグ

【日本】		得
GK	井藤	0
GK	岡部	0
FP	津川	4
FP	蒲生	8
FP	穂積	2
FP	柳川	0
FP	斉藤幸	1
FP	斉藤将	1
FP	関	1
FP	中本	0
FP	生駒	2
FP	山本	6
	PT（1）	25

【フッテンベルグ】		得
GK	コバイ	0
GK	ストイ	0
FP	ベーバー	1
FP	オーリー	7
FP	アレンドルター	1
FP	マック	2
FP	フス	0
FP	シュワルツ	1
FP	ドン	6
FP	クレイン	0
FP	メイネッケ	4
FP	ベーベル	1
	PT（2）	23

○…日本が蒲生、山本で射ちこめば、フッテンベルグは、オーリー、ドンが長打をとばして応しゅう、乱戦となった。

しかし、日本は、前半なかばすぎから後半10分頃まで、好テンポで攻めこみ、ディフェンスもよく詰めてリードを奪い、終盤、力に頼って突進してくる相手の反撃をかわし切った。

全員ムラのない攻守

第6戦、TV・アンゲルムント（二部リーグ西北ゾーン5位）との試合は、6日ケフラーで行われた。

全日本 21（10－7, 11－10）17 TV・アンゲルムント

【日本】	得
GK 井藤	0
GK 岡部	0
FP 津川	3
FP 関	3
FP 穂積	1
FP 山本	0
FP 蒲生	5
FP 斉藤幸	3
FP 斉藤将	0
FP 柳川	2
FP 池ノ上	2
FP 生駒	2
PT	（1）
計	21

【アンゲルムント】	得
GK ローマン	0
GK スタケンボルク	0
FP フィッシャー	3
FP ベレンバーン	8
FP グルジェノフ	3
FP ベイエン	0
FP ベサン	1
FP ニップ	1
FP クラプドール	0
FP コシュマン	1
PT	（2）
計	17

○…相手は〃二部〃リーグ、得点源はベレンバーン一人だけ。調子の出てきた日本は、津川の好リードから、全員ムラのない動きで得点をあげ、スコアは、あまり開かなかったが、完勝といえた。

山本（湧永）の巧技光る

第7戦、TV・グラムブケ（全国リーグ11位）との試合は、8日ブレーマーハーフェンで行われた。審判＝シュメックバイヤー、ベルダー、観衆＝千二百。

TV・グラムブケ 24（13－11, 11－12）23 全日本

【日本】	得
GK 福井	0
GK 岡部	0
FP 津川	0
FP 山本	7
FP 蒲生	8
FP 柳川	1
FP 穂積	1
FP 中本	0
FP 関	2
FP 池ノ上	3
FP 生駒	0
FP 斉藤幸	0
PT	（3）
計	23

【グラムブケ】	得
GK シュローデル	0
GK ヴィット	0
FP ウーリッヒ	6
FP シュミットマン	0
FP プライス	4
FP ベレバルト	0
FP フレスナイダー	3
FP マスロウスキー	4
FP ハリエス	5
FP ドラーゲン	0
FP エイルメル	0
FP シュベッカー	2
PT	（0）
計	24

▽日本交替選手・GK井藤（得0）・FP斉藤将（得1）

○…山本の切れのよいプレーが光ったものの、日本は終盤せり負けた。

グラムブケは、全国リーグの中でも攻撃力はAクラス、それだけに、日本が少々先行しても慌てない。めまぐるしいほどの点のとりあいから、日本は、最後のところで、相手の集中攻撃をうけてしまった。

防戦一方の日本

第8戦（西ドイツ最終戦）、GW・ダンケルセン（全国リーグ5位）の試合は、9日ボルタベストハリカで行われた。

GW・ダンケルセン 24（13－8, 11－10）18 全日本

【日本】	得
GK 岡部	0
GK 神井	0
FP 津川	1
FP 柳川	0
FP 穂積	6
FP 斉藤幸	0
FP 蒲生	1
FP 池ノ上	3
FP 生駒	0
FP 斉藤将	1
FP 関	5
FP 山本	1
PT	（0）
計	18

【ダンケルセン】	得
GK ベルグ	0
GK ニーメイヤー	0
FP ヨンソン	0
FP アッセルソン	5
FP クレブス	5
FP ブッデンボーム	0
FP シュンベルト	0
FP ウエーベン	1
FP クラマー	0
FP バルッケ	5
FP ブッヒュ	8
FP メイヤー	0
PT	（2）
計	24

▽日本交替選手・GK井藤（得0）・FP中本（得0）

○…日本は、この一戦に勝って五分の星にしたいところだったが、またしても、後半の勝負どころで出た拙攻拙守で、勝利を逃した。

ダンケルセンは、アイスランドナショナルのアッセルソンと、西ドイツナショナルのバルッケを主力に、激しい闘志で、日本を迎えた。

西ドイツの、というよりヨーロッパの名門クラブは、一国の代表チームに善戦することが、大きな勲章になる。

この試合も、前半のせりあいから、後半、ダンケルセンは、日本の僅かな疲れに乗じて一気に攻めこみ、日本は防戦一方となった。

西ドイツでの8戦、日本は、その攻撃において、ヨーロッパのトップクラスをしのぐ展開をしながら、思いもよらぬもろさをのぞかせた。

これは、国際経験の乏しさを示すもので、日本にとって大きな課題といえる。

蒲生はこの遠征で“国際的アタッカー”の名と実力を不動のものにした（対グラムブケ戦）

西ドイツ各試合の後記は「週刊ハンドボール」「スポーツ文化」「ビルトツアイトンク」などから本誌がまとめたもの。

【日本】	得
GK 福井	0
GK 岡部	0
FP 津川	3
FP 関	1
FP 斉藤幸	4
FP 山本	1
FP 穂積	3
FP 柳川	3
FP 池ノ上	0
FP 斉薬将	0
FP 蒲生	5
FP 生駒	1
PT	（1）
計	21

【オーストリア】	得
GK ゾルニー	0
GK ホリテイシュ	0
FP ダネマン	0
FP ラーブ	0
FP グルボック	3
FP ツーアルツアー	2
FP ヒューブマン	2
FP ブロック	3
FP ガンゲル	6
FP ラインバッヒャー	4
FP スタインスヘルナー	4
FP メイヤー	0
PT	（4）
計	24

オーストリアと2勝1敗

オーストリアでの第1戦（遠征第9戦）は、4月12日、ブルックムルでオーストリア・ナショナルと行われた。

オーストリア 24（10―13、14―8）21 全日本

○…オーストリアは、世界屈指のハンドボール国だ。

ところが、西ドイツ、スイスなどよりも、11人制への固執が長くすっかり、世界の檜舞台から遠去けられてしまった。

これではならじと、2月の世界選手権Bグループが終るや、〝再建〟3年計画を発表、一九八二年の世界選手権には是非出場をとの構想を打ち出した。

その矢先、かっこうの相手ともいえる日本が乗りこんできた。

地元のプレスは、ほとんど、この3連戦を日本の勝ちこしとみていただけに、オーストリア関係者のファイトは、いっそう燃えていたといえる。

一方、日本は西ドイツ転戦を終えて、やや気のゆるみがのぞき、それが第1戦の拙戦となって現れた。

しかも、この日が体育館のこけら落とし。オーストルア側に張り切る理由でもう一つ加ったわけである。

試合は、終始オーストリア側への熱狂的な声援の中で進められ日本は、立ちあがりから受け身、攻撃も鋭さがなくやや一方的な経過になった。

後半になって日本はようやくリズムが出はじめ、10分一気に17―18まで詰めたが、オーストリアは、要所で得たPTをツアルツアー、ガンゲル、スタインスヘルナーなどが入れ替り立ち替りに打ってリードをキープ。日本はスカイプレーなどを繰り出して追撃したが、前半の失点をくつがえすまでにはいたらなかった。（東嘉伸コーチ）

ヨーロッパ遠征メンバー

	氏名	年齢・所属	身長
・団　長	荒川　清美（日本協会理事長）		
・監　督	竹野　奉昭		
・コーチ	東　嘉伸		
	本田　洋		
	木野　実		
・GK	福井　秀人	(25才・湧永薬品)	180cm
	岡部　大	(24　大崎電気)	182
	井藤　英忠	(20　日体大)	184
・FP	津川　昭	(26　湧永薬品)	180
	穂積　豊彦	(26　〃　)	180
	山本　伸二	(24　〃　)	176
	池ノ上孝司	(23　〃　)	185
	生駒　靖夫	(23　〃　)	184
	志賀　良弘	(22　〃　)	187
	蒲生　晴明	(24　大同特殊鋼)	192
	柳川　実	(24　〃　)	175
	中本　満明	(24　〃　)	184
	斉藤将一郎	(25　秋田教員)	187
	斉藤　幸司	(25　大崎電気)	174
	関　健三	(24　三陽商会)	180

蒲生（大同）13点をあげる

第10戦、オーストリアナショナルとの2回戦は、14日オイーンで行われた。

全日本 26（15―11、11―10）21 オーストリア

【日本】		得
GK	福井	0
GK	井藤	0
FP	津川	3
FP	山本	3
FP	蒲生	13
FP	関	0
FP	穂積	3
FP	池ノ上	1
FP	斉藤幸	1
FP	斉藤将	1
FP	中本	0
FP	柳川	1
	PT (3)	26

【オーストリア】		得
GK	ゾルニイ	0
GK	ホリティシュ	0
FP	ダネマン	0
FP	ラーブ	0
FP	ツアルツアー	0
FP	ヴィーデルエル	1
FP	ブロッフル	0
FP	ガンゲル	8
FP	ラインバッヒャー	1
FP	スタインスヘルナー	0
FP	メイヤー	3
FP	フーバー	8
	PT (7)	21

○…スタンドにウイーンの日本人学校に通う子供たちが、日の丸を持って集った。

荒川団長は、試合前「この子たちのためにも勝て」と激励。

そのためか、日本の動きは、第1戦とは比べものにならぬほどよく、失点してもすぐに奪いかえす粘りで、前半11―10。

後半は、山本の巧みなフットワークによる得点で追加点をあげ、10分すぎ16―12と差をつけた。

オーストリアは、日本の速い攻めに驚いた様子で、後半は、ほとんど一方的なものとなった。

なお、蒲生のあげた13ゴールは昭和22年、飯端（当時、関学）のマークした12ゴールを上廻る日本選手の公式国際試合における前記録である。（本田洋コーチ）

追いこみ、あと一歩及ばず

第11戦、オーストリアナショナルとの3回戦は、16日ヴイルヘルムスブルグで行われた。

オーストリア 20（10―14、10―5）19 全日本

○…ウイーンの西、60キロにある陶器の町。

日本は、立ちあがりまったく調子が出ず、あっという間に、オーストリアにペースを握られてしまい、第1戦同よう苦しい展開となった。後半に入り、日本は、斉藤（幸）に当りがでて反撃、15分すぎ1点差までこぎつけた。

【日本】		得
GK	福井	0
GK	井藤	0
FP	津川	2
FP	蒲生	8
FP	穂積	1
FP	関	1
FP	山本	1
FP	斉藤幸	4
FP	斉藤将	1
FP	柳川	0
FP	中本	0
FP	池ノ上	1
	PT (2)	19

【オーストリア】		得
GK	バイエル	0
GK	ホリテイシュ	0
FP	ダネマン	0
FP	ラーブ	0
FP	ヴィーデルエル	0
FP	ブロッフル	0
FP	ガンゲル	7
FP	ラインバッヒャー	5
FP	スタインスヘルナー	1
FP	メイヤー	3
FP	ツアルツアー	0
FP	フーバー	4
	PT (4)	20

1979

昭和54年度から“より大きな補償”の保険になります

スポーツ団体だけでなく 子ども会，婦人団体，地域のクラブ等の方々も 10名以上のグループで，ご加入になれます

●保険料，保険金額は（お一人につき）

区分		保険料	死亡・後遺障害保険金額	医療保険金額	
				通院中	入院中
第1種	A	340円	12,000,000円 後遺障害の支払いは 3%～100%	日額 1,000円 支払限度日数 90日	日額 1,500円 支払限度日数 180日
	B	400			
	C	680			
第2種	A	9,600			
	B	3,200			
	C	1,600			

（注）特に希望がある場合は，保険料，保険金額が上記の半額になるS型の加入も可能です。

●第1種，第2種ＡＢＣの区分は次のとおりです。

第1種	A	スポーツ少年団，子ども会，こてきバンドなどの幼少年グループ
	B	ＰＴＡ，旅行同好会，万歩クラブなどで文化活動，奉仕活動，軽スポーツなどを行う団体
	C	ママさんバレー，早起き野球などの地域スポーツ団体
第2種	A	山岳会，スキンダイビング，リュージュなど
	B	スキー，ラグビー，サッカー，柔道，ボクシング，空手，馬術など
	C	卓球，テニス，陸上，水泳，軟式野球，バレー，ボート，体操競技など

●体協公認等の指導者も10名以上まとまった場合は第1種Cで加入できます。また，指導する団体の一員としても加入できます。

●適用の範囲（担保条件）は

○加入者の所属する団体の管理下における活動中の事故。
○団体が指定する集合，解散場所と加入者の住所との通常の経路往復中の事故。
○ただし学校管理下（学校安全会の給付対象内）における事故は不担保。

●保険期間

毎年4月1日より翌年3月31日まで。ただし，中途加入でも翌年3月31日までです。（申込は3月1日から受付ます）

●加入申込み，資料の請求，お問合せは……

スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課にあります），東京海上火災の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館
電話 467－3111（代） 直通460－6263

しかし、オーストリアも渋とく追われながらもPTを活かすなどして、タイスコアは許さない。

日本は、あと一歩が足りないまま18－20から19－20としたところでタイムアップ。逃げ切りを許してしまった。

前半の失点があまりにも大きく実力的に優りながら、1勝2敗と負けこしたのは反省される。

最終戦、勝利でしめくくる

第12戦（遠征最終戦）は、SC・エゲンブルク（全国リーグ5位）と、4月18日エゲンブルグで行った。

全日本 29（14－11、15－13）24 SC・エゲンブルグ

▽日本交替選手・FP関（得0）

○…エゲンブルグは、大型選手を揃え、いきなり2－0とリード張り切ったところをみせた。

しかし、日本は、相手の動きになれると、すぐに同点(2－2)、そのあとは、いちどもリードを許さず、いささか、点はとられすぎたものの、危気ない試合ぶりで、遠征の最後を、勝利でしめくくることができた。

得	【日本】		【エゲンブルグ】	得
0	岡部	GK	コンラト	0
0	福井	GK	マゲンスマハー	0
4	津川	FP	フイッカ	1
2	池ノ上	FP	コングビルス	0
9	蒲生	FP	ロスネル	0
3	生駒	FP	ダテイエル	0
3	山本	FP	ダニンガー	0
2	斉藤幸	FP	マンスハインプクト	7
0	柳川	FP	チョップ	0
5	穂積	FP	コワリック	8
1	斉藤将	FP	グンクト	2
0	中本	FP	シュミット	6
29	(2)	PT	(3)	24

ヨーロッパコートサイド

▽…西ドイツ遠征中の全日本を驚ろかせたのは、西ドイツのエース、J・デッカルムの重傷（前号「海外トッピックス」速報）。

ヨーロッパ・カップの準決勝で相手ハンガリーの選手のボディチェックに会い転倒、頭部を強打し頭骸骨々折というアクシデントに見舞われたもの。

ただちにブダペストの病院で大手術が行われたが、意識はいまもって取り戻せず、という重態がつづいている。

西ドイツのテレビは、毎日のように、事故場面のヴィデオテープを流し、デッカルムの容態を伝え新聞も、大見出しで、この"悲劇"を詳報、日本選手は、いまさらながら、デッカルムの実力と、ヨーロッパにおける人気の高さを知った、という。

日本女子敗戦が話題

▽…ミュンヘン以来、7年ぶりに西ドイツを訪れた荒川理事長（団長）に、古くからの球友が大歓迎したが、話題はもっぱら、去年の世界女子選手権予選で、日本が韓国に敗れたこと。

西ドイツでは、アジアにおける日本の実力を不動のものとみており、行く先々で、雪じょく（オリンピック予選）を期待されたという。

また、中国の動向に対する関心も高く、国理事長の感触では「西ドイツは、中国のIHF加盟を歓迎しているようだ」。

記念にウインフィル盤

▽…日本チームがオーストリアを訪れたのは、一昨年の湧永薬品（広島）の単独遠征につぐものだったが、ナショナルの訪問は初とあって、4会場とも満員のファンを集めた。

なかでも、最終戦のエゲンブルクは、人口四千人足らずの小さな町で、外国のナショナルチームが来るのは初めて。体育館は観衆があふれ、"遠来の珍客"とばかり歓待してくれた。

試合に先立って日本チームに贈られたのは、有名なウィーンフィルハーモニーの「ニューイヤーコンサート」を収めたレコード。いかにも音楽の国らしいプレゼントだった。

竹野奉昭全日本男子監督に聞く

強行スケジュールを消化して帰国した全日本男子・竹野奉昭監督は、この遠征のふり返りと、今後の構想を次のように語った。

◇

今回の遠征はあくまで"強化"トレーニング"が目的。

勝率ははじめから度外視していた。勝つ気なら、それなりの作戦もあったが、あえて、そうした場面でも、ある時は強気、ある時は弱気といった具合に、選手を動かしてみた。

選手も、遠征の目的を理解していたので、敗れた試合も、気にはしていないハズだ。

もちろん、課題に目をつむってよいわけはない。

特に、攻防両面で、「ここぞ」という時にもろさが出るのは、早急に解決しなければならない。

ヨーロッパへ全日本として初遠征した選手が多く、いわゆるナショナルマッチの経験に乏しかったこともあるが、世界のレベルは、ますます均こう化しており、僅かなミスが、勝敗や順位を決めてしまう。

いかに、ミスを少なくするかを秋までのテーマにするつもりだ。

大きな収穫は、ようやく一つのチームとしてのまとまりが感じられるようになったこと。

各選手の自覚があってこそナショナルチームは成り立つ。

選手たちが、苦しいスケジュールのなかで、戦かう姿勢とともに自分たちがやらねば、という意欲を示してくれたのは、嬉しかった。

今回の遠征では、蒲生(大同)が国際的アタッカーとして、不動ともいえる位置を築いたことが明きらかとなったが、彼への依存だけでは、とても、上位へ進めない。

その意味でも、選手個々の精神的上向があったのは、今後に期待がかけられる。

技術的には、各選手にオールラウンドのシュート技術を身につけさせたい。

また勝率の話になるが、一つのチームをまとめあげて遠征に出かけ、それで負け越したとなるとショックも大きいが、今回は、これからのために、なにが必要かを探りにいったのだから、大きな成果をあげたとしていいだろう。

ところで、西ドイツは、世界制覇で、単独クラブまで活気があった。オーストリアは、再建へ踏み出したばかり、意欲に満ちていた。

この両チームが、7月以降つづけて来日してくれることになったが、是非、よい試合をしたい。

オーストリアにはもちろん、西ドイツにも一泡吹かせたいものだ。

（4月20日深夜、東京で）

第二回中央普及委員会

5/23

【審議事項】

一、普及活動について

ハンドボールを普及させる前提としてハンドボール競技そのもののよさを引き出すことを考えなければならない。

一、教員養成大学ハンドボール研修会について

オリンピック記念青少年センターでの研修は今年は無理なので、筑波大学で行なう。これを機会に各地で行なうことを検討する。

期日は八月十七日〜二十日

一、優秀選手巡回指導について

鳥取、栃木、兵庫と行なわれることになっている。（あと2県できる予算がある）

一、全国中学校大会について

文部省事務次官通達（昭和五十四年四月五日付け）によって今年から開催方法が異る。

。ブロックの分け方が中体連では8ブロックに分けているが、ハンドボール協会では9ブロックに分けて行なってきた。今年は9ブロックで行なわれる。

。予算

運営費　国家予算　100万
　　　　中体連　20万
　　　　日本ハンドボール協会　100万
　　　　東京都ハンドボール協会　20万
　　　　東京都教育委員会

。要項は近日中に出来上る予定

一、中学校の組織について

中体連はハンドボール部の全国組織を作っている。ハンドボール協会も全国組織は出来ているが、権威がなく、又機能していない面がある。日本協会としてバックアップすることは急務であるが、今すぐどうこうするわけにはいかないのではないか。今年中学校大会の折に協会の中学校組織と中体連の中学校組織で話し合いをする。

一、上級コーチ講習会について

上級コーチ専門教科受講者は全員（48名）合格とした。

（出席者）大西武三、勝繁夫、北井晴次、浅野鉦世、土井秀和、斉藤辰雄

ハンドボール夜の集い

8月18日（土）午後六時より
場所……東京・代々木青少年スポーツセンター
参加費…一人・百円
□主催　東京都ハンドボール協会
TEL〇三（四四一）二一一〇

ハンドボールのあり方に関する一考察

—反則に関して—

ハンドボール反則身体接触

一、研究の目的

ハンドボール競技人口は年々増加の傾向にあるが、幅広い普及はいまひとつ遅れているように思われる。ハンドボールはチームプレーを行なうなかで走跳投捕の基本的運動能力を十分に養うことができ、学校体育教材としてもすぐれている。ここではハンドボール競技が日本のトッププレーヤーやそれと同世代の人々にどのようにとらえられ、プレーされているかを明確にし、今後のハンドボール競技の望ましいあり方を考えてみたいと思う。

二、研究の方法

昭和53年度全日本総合ハンドボール選手権大会出場選手男女と大学生男女を対象に質問紙法により調査した。調査年月日は昭和54年1月、調査項目は全68項目である回収率は約65%であった。

三、結果と考察

調査結果の主なものをAの表にしめした。ここでは経験者とはクラブ経験者（男八・三年、女四・七年）をさす。集計の結果ハンドボールはシュートがダイナミックであり、スピーディーでキビキビした動きが多く、かなりの体力を必要とする競技であるととらえられている一方、反則に関しては粗暴なプレーが多く、きたない反則やけがの多い競技であるとみられていることがわかった。またゴール前の攻撃が単調、平面的でセットに時間がかかりすぎるという意見が日本のトッププレーヤーでも20%～30%を占めていた。未経験者男子の60%が初心者でも十分にプレーが楽しめると答える一方、トッププレーヤーの70%以上が試合はこびのむずかしさを認めるというハンドボールの持つ技術の奥行の深さを示している。また経験者の90%近くの者が審判によりゲームが左右されやすいと答え、反則に対しても厳しく対処してほしいと望んでいることがわかった。指導者の不足やマスコミ対策の遅れなどもかなりの高率を示した。

1　経験者と未経験者との比較

経験者の意見として多かったのは審判のルールに対する解釈が統一されていない、審判によってゲームが左右されやすい、見て面白いスポーツ、身体接触があり面白い、迫力があるなどで、未経験者の意見としてはサッカー等にくらべてスケールが小さい、攻防がはっきりしていて意外性に欠ける、見てひきつけるものがない、反則数に制限がないのがよくない等が多かった。経験者では審判への不満を除けばおおかた肯定的な意見が多く、未験経者では他の競技と比較しての意見が目立った。

2　男女間の比較

男子では身体接触があって面白い、審判の権限をもっと強くすべきだ、もっと大会を多く開いて欲しい等の積極的な意見が目立ち、女子では接触プレーが危険である、けがの多いスポーツである、試合はこびがむずかしい、かなりの体力が必要である等の消極的な意見が多く、女子の目にはハンドボール競技がかなりハードなスポーツとしてうけとめられていることがうかがえる。

3　反則に関する印象

特にここでは反則がハンドボールのイメージを悪くしているのではないだろうかとの考えから項目間でクロス分析を行なった。ハンドボールは激しいスポーツであり身体接触があって面白いとするものは経験男子で90%、経験女子で70、未経験男子で50%、未経験女子で20%と明らかな差が出ていたまた反則数に制限がなくても見て面白いスポーツであると答えた者が経験者で約70%、未経験者で約20%と大きな差が見られた。

身体接触に関するラフプレーはハンドボール競技をより一層普及させるためにもいましめなければならないように思われた。

（報告者）
筑波大学
河村レイ子
大西　武三

THE HEALTH TREE CREATES A HAPPY LIFE

キヨーレオピン
KYO LEOPIN
LIQUID
レオピン
ファイブ

Bear

身体接触の反則について

埼玉　野村　敏美

はじめに

〝ハンドボールは、教材として取り入れられるにふさわしいスポーツであるか〟と問われたとき、関係者以外でも〝イエス〟と答えることができたろう。しかし、大学リーグなどの試合を目の前にしたとき、すぐにはその答えを用いられない。実際、生徒に、日本リーグや大学リーグでのプレーを見せて〝これがハンドボールだよ〟とは言い難い。ジャンプ体勢を押したり、抜かれて横から抱えたり極端に言えば、球技格闘技という技術(3)の競い合いになっている。このようなことでは、安全の面から、また観衆の目にもよくうつらず、さらには、ハンドボールプレーヤー全体の意識をも疑われ、ハンドボールの普及は、とても望めそうにない。

そこで、身体接触の反則について、実状を調査し、問題を探し出し、今後のハンドボールのあり方について考えることにした。

○研究の方法

52年度関東学生男子1・2部秋季リーグ戦と全日本学生戦手権大会（大阪）の試合、計20試合について、反則状況を録音し、記録用紙に記入し、まとめる。

調査の内容

①反則の種類

②シュート体勢における反則か否か。

③罰則の種類

④セットと速攻における反則について

○調査の結果と考察

①反則の種類　　表1

反則	種類	数	計
ホールディング	フローターに対して	76	558
	カットイン	263	
	ポスト	115	
	サイド	18	
	速　攻	76	
	その他	10	
プッシング	フローター	184	506
	カットイン	107	
	ポスト	75	
	サイド	50	
	速　攻	47	
	その他	43	
ハッキング		33	41
	速収	8	

反則	数
手・腕をひっかける	7
速攻	10
手・腕を押える	22
速攻	1
首をひっかける	13
手・腕をひっぱる	3
肩を押える	3
ライン内防御	28
ユニホームをひっぱるなど反スポーツマン的態度	12
計	1268

※　オフェンス側では

反則	数
チャージング	23
プッシングホールディング（ブロックの際）	5
計	28

(1) 20試合の反則状況について

……総反則数—一二六八

ここでわかったことは、防御側の反則（1268）に比べ、攻撃側の反則（28）が極端に少ないこと、つまり、大学1部リーグの試合などでは、オフェンス技術が高度化して、スピードも増しているのに対して、ディフェンスのフットワークやボールカットの技術などが遅れていること。そして、ルールに許されているように、相手の進行方向に立ち塞がる程度では、有効な防御は難しいこと、さらに、審判も高度化したプレーを瞬時で判断しなくてはならず、とても困難であるが、チャージングが判定されるべき場面に、防御側の反則がとられたケースが多くあったように思われた。

さらに、大きな問題は、プレーヤーの意識にあると思われる。パスカットしようとして誤ってぶつかったとか、シュートカットの際に少し押してしまったという反則（表1のその他の10＋43＋ハッキング41）は、しかたないとしても相手の首をひっかける、手・腕を引っぱる、肩をおさえる、横から突く、後ろから押す、さらにユニホームを引っぱるなどという反則は、フェアープレーということばを全く忘れてしまっているようである。チャンピオンスポーツではとにかく勝たなければという意識が先に立ち、ルールに違反するのは恥ずかしいことだとは感じないという場面が多く見られた。

全試合に警告あるいは退場が見られたが、ディフェンスの違反行為にもかかわらず、得点したときには、ゴールインと同時に、そのディフェンスが警告や退場を判定されたことはほとんどなかった（1例）。危険防止の意味からも、ゴールインだけでない処置が必要なのではないだろうか。

また、ペナルティースローの成功率は0.71であったことを報告しておく。

(2) 勝ちチームと負けチームの比較

①反則数と勝敗

表3より、次のようなことが言える。

②シュート体勢における反則か否か　　表2

②罰則の種類は

		シュート体勢	シュート体勢以外
フリースロー	1068	115	953
ペナルティスロー	139	125	14
警　告	45	8	37
退　場	11	1	10
注　意	1		1

ペナルティースローについて

20試合の合計	139
ゴールイン	99
成功率	0.71
1試合平均	6.95
ゴールイン	4.95
平均得点（36.3）の14%	

反則が多い方のチームが勝った試合	7
反則が少ない方のチームが勝った試合	10
反則がほぼ同数（差3が以内）だった試合	3

・総数では、勝ちチームが犯した反則が多い。

・身体接触の反則は、攻撃のし方によって状況が異なるカットイン、フェイントを多用し、じっくり攻めるチームに対しては多く見られ早うちのロングシューターなどに対しては少ない。

②罰則数について

・勝ちチームは、20試合全体では総数・フリースロー・警告・退場ともに多いが、ペナルティースローだけは負けチームの方が多く勝ちチームに与えている。

③速攻における反則について

・勝ちチームは、負けチームより速攻を止めるための反則を多くしているが、シュート体勢に入る前にしているので、ペナルティースローを与えたのは、負けチームより少ない。

○まとめとして

1、セットでは、攻撃側が有利である……同時に違反行為を犯しても、チャージングの判定は少

表3

勝ちチーム	相手チームのシュート成功率	許したシュート数	失点	反則数	反則数	失点	許したシュート数	相手チームのシュート成功率	負けチーム
1. 慶　応	0.48	42	20	24	30	30	55	0.55	日本体育
2. 法　政	0.39	46	18	28	27	23	49	0.47	国士館
3. 中　央	0.20	44	9	42	39	19	47	0.40	早稲田
4. 慶　応	0.38	42	16	15	25	22	49	0.45	国士館
5. 日本体育	0.40	50	20	39	16	24	51	0.47	法　政
6. 筑　波	0.31	42	13	31	45	16	42	0.38	中　央
7. 中　央	0.50	36	18	32	43	21	43	0.49	日　本
8. 筑　波	0.38	45	17	27	36	16	38	0.47	早稲田
9. 東　海	0.38	36	14	41	11	18	43	0.42	明　星
10. 学　芸	0.25	44	11	24	40	21	53	0.40	青山学院
11. 東　海	0.35	38	13	65	25	14	34	0.41	順天堂
12. 立　教	0.34	32	11	32	43	19	36	0.52	防　衛
13. 明　治	0.34	38	13	46	19	18	37	0.78	明　星
14. 順天堂	0.27	33	9	27	18	32	45	0.71	明　星
15. 芸　術	0.53	40	21	37	42	24	52	0.46	青山学院
16. 大阪体育	0.36	36	13	30	42	18	35	0.51	筑　波
17. 筑　波	0.34	44	15	21	27	22	44	0.50	国士館
18. 中　央	0.48	47	23	21	17	25	43	0.58	法　政
19. 名　城	0.41	46	19	25	29	20	49	0.41	大阪体育
20. 日本体育	0.27	43	12	51	35	36	49	0.33	日　本
合計		824	305	658	605	420	894		
平均	0.37	41.2	15.3	32.9	30.3	21.0	44.7	0.47	

表4

	フリースロー	ペナルティースロー	警告	退場	総数
勝ちチーム	564	64	24	7	658
負けチーム	504	75	24	1	605

表5

	勝ちチーム					負けチーム				
	フリースロー	ペナルティー	警告	退場	計	フリースロー	ペナルティー	警告	退場	計
シュート体勢	4	10	4	0	18	5	19	2	0	26
シュート体勢以外	54	2	6	2	64	43	0	3	3	49
計	58	12	10	2	82	48	19	5	3	75

少なく、ディフェンスの反則がとられることが多い。
2、速攻では、シュート体勢に入る前までは防御側が有利である……大きな得点チャンスを反則によって阻止しても、罰則は直接得点に関わるようなことは少ない。
3、反則数と勝敗との関係より……反則することは、試合に勝つためにマイナスになるということとは全くなかった。
4、警告・退場に至る反則は、せり合っている試合で起きやすく粗暴になりやすい。

○今後の課題として

・現状では、反則することが勝つことにマイナスにならないばかりか、勝つための反則が必要とさえなっている。よって、粗暴な反則に対しては現行より厳しい、直接得点に関わる罰則が必要なのではないだろうか。罰則が不利になるので、ルールを尊重しようという考え方では少しレベルが低いと思われるが……。

・コーチの意識の転換……プレーヤーの意識の向上については前述のとおりであるが、これを育てるコーチは、練習中どんなときに、"ナイスバック"の声を指導すべきか。もっと考えなければならない。ディフェンスは腕・手をボールに対してではなく、相手の体に対して使い、脚は動かず遅れて後ろから、ということが多い。ディフェンスの強化が必要である。しかし、たとえば、ポストプレーヤーに対する守り方を考えると、問題は復雑であり、きれいに守っていては、大きな得点を失ってしまうだろう。それもしかたないことであり、ハンドボール界全体が"クリーンハンドボール"をめざし、バスケットボールとまではいかなくても、もっと高い得点で勝敗を競うことを考えてはどうだろうか。

・審判法……粗暴化を防ぐためには、・シュートインの際の違反行為を見逃さない。・アドバンテージを見過ぎない。・ボールを保持しないオフェンスに対する防御を取り締まる……これらの点に注意する必要があると考える。

我々は、ハンドボールで、いったい何を学び何を指導しなくてはならないかついつい忘れがちです。ルールを尊重し、その中で勝つこと、やりとげることを味わわせてやれば、最高ですが、現実には、試行錯誤、理想でしかないと留いしらせることが多いようです

しかし、スポーツであるがゆえの根本は見失わないようにし、プレーヤーも、そして観衆も楽しめるような"クリンハンドボール"をめざしていきましょう！

	経験者				未経験者			
	男 (45)		女 (89)		男 (100)		女 (62)	
	yes	no	yes	no	yes	no	yes	no
シュートがダイナミックである	35	9	87	2	81	17	56	5
チームプレーが素晴らしい	38	6	83	6	63	34	51	10
迫力があってよい	39	5	84	5	57	31	38	20
見ておもしろい	36	8	76	13	47	50	30	29
初心者でも十分プレーが楽しめる	20	24	42	44	59	39	20	41
キビキビとした動きがよい	37	7	80	8	80	19	53	8
激しいスポーツである	42	0	87	1	73	24	56	4
かなりの体力が必要である	41	3	89	0	77	22	57	3
試合はこびがむずかしい	34	10	77	11	62	32	43	14
高度な技術が必要である身体	41	3	66	21	76	19	40	19
接触がありおもしろい	41	3	65	23	74	24	14	46
審判の権限をもっと強くすべき	38	5	48	40	65	24	32	22
粗暴なプレーが多い	17	26	51	37	42	54	27	31
きたない反則が目立つ	15	29	43	45	34	59	15	43
けがの多いスポーツである	27	17	71	17	41	56	32	26
見てひきつけるものがない	7	37	10	78	42	55	18	43
接触プレーが危険	17	27	55	33	41	56	37	23
反則数に制限ないのがよくない	14	30	16	73	56	42	34	24
セットでの時間がかかりすぎる	12	31	20	68	41	49	18	31
マスコミでもっととりあげてほしい	44	0	89	0	70	27	39	15
攻防が明確で意外性に欠く	6	38	13	71	42	56	24	34
攻撃が平面的である	7	37	17	71	37	58	22	38
審判でゲームが左右されやすい	40	4	84	5	55	37	27	27
反則に対してもっと厳しく	38	6	64	25	69	23	35	20

（A表）河村レイ子，大西武三報告

第8回 全国中学校ハンドボール大会実施要項

○主催
全国中学校体育連盟・日本ハンドボール協会・東京都教育委員会

○後援
文部省、全日本中学校長会、全国教育長協議会

○主管
東京都中学校体育連盟、東京都ハンドボール協会

○目的
ハンドボール競技を通して、心身ともに健全な青少年の育成と交友を深め、技術の向上を図る

○期日
昭和54年8月21日（火）～23日（木）

○会場
中央大学体育館（東京都八王子市）

○参加対象
全国9ブロック（北海道1、東北1、関東2、北信越2、東海2、近畿2、中国2、四国1、九州2）の代表及び東京都ハンドボール協会が推せんする1校単位で組織する男女各1チーム計32チーム（男16、女16）
なお、参加は同一県より男女各1チームとする。ただし東京都（開催地）には適用しない。

○参加資格
日本国中学校に在学する中学校学令の生徒

○参加人員
512名　1チーム　選手15名　監督1名（当該校の教員）計16名

○競技規則
昭和54年度日本ハンドボール協会競技規則に準ずる
○競技時間　20分ハーフ（20分―10分―20分）
※　延長戦については、準決勝戦までは第一延長のみペナルティとする。
決勝戦は正規で行う。
（但大会運営の都合で時間及び延長の規定変更もある）
○競技方法　男女別トーナメント法とする
○その他　メンバーの変更は認めない。背番号は申込みと同じとする。ユニホームは2色用意すること。

○使用球
日本ハンドボール協会検定球（松やに使用は禁止）

○組合せ、抽せん
昭和54年8月4日　日本協会代表立合いのもとで大会事務局で行う。

○表彰
賞状（上位4チーム）優勝旗、優勝杯（日本協会）―1年間保有　トロフィー（中体連）

○申し込み期日
昭和54年8月1日　所定の用紙で申し込む

○申し込み先
〒190　立川市柴崎町1―3―4
立川市立立川第一中学校内
第8回全国中学校ハンドボール大会事務局
TEL 0425―32―4328

○宿舎
新宿区百人町2―27　東京海洋会館（03―368―1121）1泊2食　￥4,800

○日程

日	時間	内容	会場
8／21（火）	9：30～10：30	審判会議	中央大学体育館
	10：30～11：30	代表者会議	
	11：30～12：00	開会式	
	13：30～17：30	試合	
8／22（水）	9：30～16：00	試合	
	15：00～16：00	中体連代表者会議	
8／23（木）	10：00～11：00	試合	
	11：30～12：30	閉会式	

※　宿舎、会場案内は、申込み受領後発送する。宿泊予約金（1泊分）は申込みと同時に納めて下さい。
代表者の連絡先は、自宅の住所、電話を必ず明記して下さい。

全国クラブハンドボール第3回静岡大会実施要項

1、主催
静岡県ハンドボール協会

2、後援
日本ハンドボール協会・静岡県教育委員会・静岡県体育協会・静岡市教育委員会・静岡市体育協会静岡新聞社

3、主管
静岡県ハンドボール協会

4、期日
昭和54年7月27日(金)・28日(土)・29日(日)

5、会場　静岡市民体育館、他

6、参加資格
(1) 各都道府県協会が推せんしたチーム
(2) 昭和54年度日本ハンドボール協会に登録したチーム
(3) 全日本学生連盟・全日本教職員連盟・全日本自衛隊連盟全日本実業団連盟に登録したチーム及び個人は参加できない。

7、参加チーム数
男子の部　32チーム（申込みが多い場合は調整します）

8、参加申込
(1) 昭和54年6月25日より7月7日まで受け付けます。
(2) 〒420 静岡市太田町24　静岡県立静岡工業高等学校内青山秀宛0542—45—4178
(3) 問い合せ 〒421—32 静岡県庵原郡蒲原町蒲原ヤマト食品工業KK内望月孝宛05438—5—4661

9、参加料　七、〇〇〇円　申込書と同時に納入して下さい。

10、宿泊料
1人1泊2食、税金、サービス料込み　四、五〇〇円

11、優勝チームに優勝杯と個人賞準優勝チームに準優勝楯と個人賞

12、備考
(1) 第1試合の開始時刻を7月27日11時にしますので、関東・北陸、関西、中国地区でも前日宿泊しなくても参加できます。
(2) 組合せ抽せんは主催者が行い、競技日程等は参加チームの責任者に通知する。
(3) 参加チームは審判有資格者を1名（監督選手で可）を同行させて下さい。
(4) 障害の救急処置は主管者で行いますが、爾後の責任は負いません。
(5) 参加選手は必ず健康診断を受けること。
(6) 保険は各チームにて加入して来て下さい。
※代表者会議　会場内会議室で10時より行ないます。

第30回全日本高校ハンドボール選手権大会要項

1、期日
開会式　昭和54年8月1日(水)
15時00分
競　技　昭和54年8月2日(木)
から8月7日(火)まで
6日間

2、会場
神戸中央体育館、王子スポーツセンター体育館、神戸製鋼株健保中央体育館、川崎重工㈱健保神戸体育館、兵庫県立神戸高等学校体育館

3、競技規定
昭和54年度ハンドボール協会競技規則による。

4、競技方法
トーナメント方式

5、参加資格
(1) 都道府県高等学校体育連盟校の在学生徒
(2) 都道府県ハンドボール協会を経て日本ハンドボール協会に加盟登録されたチーム。
(3) 昭和35年4月2日以降に生まれた生徒（昭和54年4月2日現在満19歳未満の者）。
(4) チーム編成する場合、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒との混成は認めない。
(5) 転校後6カ月未満の生徒の参加は認めない。ただし、一家転住などのやむを得ない理由による場合は、都道府県高体連会長の認可があればこの限りでない。
(6) 同一学年での出場は、1回限りとする。
(7) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長および所属高体連会長の承認を必要とする。

6、参加制限
(1) 各都道府県男女とも1チーム、ただし、開催県は2チーム出場することができる。
(2) 1チームの人員は選手14名以内、主務1名、監督1名とする。

7、表彰
(1) 優勝校には、男女とも高松宮賜杯を授与する。
(2) 賜杯のほか優勝校には、男女とも全国高体連優勝旗、日本ハンドボール協会杯及びNHK賞を授与する。
(3) 第1位から第3位までのチームには、男女ともチーム表彰状および個人表彰状並びに個人賞を授与する。

8、申込方法
(1) 参加申込みは、所定の用紙により3部作成し、各都道府県でまとめ、1部は都道府県高体連で保管し、他をそれぞれ(3)の㋐、㋑あてに予選成績又は推薦書を添えて書留郵便で申込むこと。なお、その際に参加料の銀行振込通知書（副）を同封のこと。
(2) 申込み締切日　昭和54年6月29日（金）必着
(3) 申込み場所
㋐ 山梨県西八代郡市川大門町1733—1（〒409-36）
山梨県立市川高等学校内
全国高等学校体育連盟ハンドボール部
㋑ 神戸市生田区下山手通5丁目（〒650）兵庫県教育委員会体育保健課内
昭和54年度全国高等学校総合体育大会　ハンドボール競技実行委員会事務局

電話078-341-7711　庁内3222

9、参加料

(1) 1チーム　六、〇〇〇円

(2) 出場チームは、参加申込み前に下記あてに銀行振込みのこと。

指定銀行　太陽神戸銀行兵庫県庁出張所　口座番号　普通預金 323—300419

名儀人　昭和54年度全国高校総体ハンドボール競技実行委員会　福井　裕

10、組合せ

昭和54年6月30日(土)13時00分神戸市勤労会館における全国高休連ハンドボール部常任委員会で抽選し決定する。

11、使用球

日本ハンドボール協会公認球

12、宿泊

(1) 宿泊料金　選手・主務・監督・引率責任者

四、八〇〇円（1泊3食）

役員

四、七〇〇円（1泊2食）

(2) 宿泊申込

所定の用紙により4部作成し、所属学校長の責任のもとに、昭和54年6月29日（金）必着でこの要項8の(3)の(イ)宛に予納金振込通知書(副)を添え、書留郵便で申し込むこと

宿泊予納金（選手・主務・監督・引率責任者1名につき二、〇〇〇円）の送金については、所定の銀行振込用紙を用い振込むこと。なお役員の予納金については、宿泊要項を参照のこと。

(3) 申込変更

宿泊申込みの日時及び到着日時等に変更がある場合は、必ず別紙（宿泊申込書の変更電文の統一について）により電報（電話・郵便は不可）でこの要項8の(3)の(イ)宛及び、宿舎宛それぞれ連絡すること

(4) その他

ア、エントリー（監督・選手・主務・引率責任者）以外の宿舎のあっせんはしない

イ、その他詳細は「宿泊要項」参照のこと。

13、諸会議

審判会議、8月1日　11：00　新和女子高校

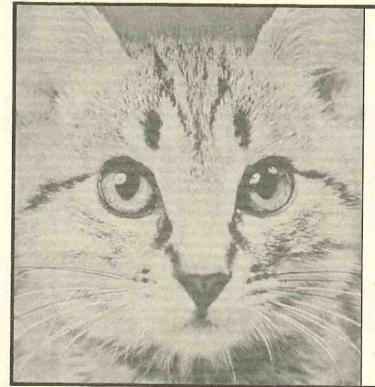
監督・主将会議　8月1日　13：00　新和女子高校

定例委員会　8月2日　16：00　神鉄会館

14、その他

開会式　8月1日　15：00　神戸中央体育館

光村服装、部旗持参

興奮再現。

持ち運んで楽しむか

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W(2.1W＋2.1W、EIAJ/DC)のパワー。12cmウーハー(中低音域用)と3.5cmツイーター(高音域用)採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき(別売り APS-80)使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子(R用、L用各1個)つき

ステレオ パディスコ 8030

TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V(単1×6) AC：100V 50/60Hz カーアダプター(別売りD-70) ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12(cm) ●重さ 5.0kg(乾電池含む)

システム パディスコ

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット専用外部スピーカー(APS-80)の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー(HT-320)を接続すればレコード音楽も楽しめます。(MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要)

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800(レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です)

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第一七四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五四年四月二十五日印刷 昭和五四年五月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋 神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五十円(年間購読料三千三百円)